# 新素材の研究会発足

## 富士市　CNF（セルロースナノファイバー）の実用開発を支援

富士市は、植物由来の軽量素材であるセルロースナノファイバー（CNF）を新たな地場産業として発展させていくため、富士商工会議所と共に研究会を発足させる。現在策定中の第五次富士市総合計画後期基本計画や市版まち・ひと・しごと創生総合戦略、第二次工業振興ビジョンのそれぞれにおいても、新素材や新製品の研究・開発の支援を明確な位置付けとする方針。

7日の市議会9月定例会で、CNFに関する政策についてただした小池智明氏（ふじ21）の一般質問に小長井義正市長が答弁した。

CNFは、木材などの繊維をナノオーダー（1ミリの100万分の1）まで微細化した新素材。植物由来であることから環境負荷が少なく、リサイクル性に優れているほか、鋼鉄の5分の1という軽量さ、鋼鉄の5倍の強度、ガラスの50分の1という熱膨張、形成自由度などの特長がある。

大手メーカーなどでは、CNFを配合した高い消臭機能を持つ大人用紙おむつやインク増粘剤として配合したボールペンなどを製品化している。自動車のボディーや内装材、半導体の電子材料、人工血管、フィルター、包装材などとしての用途発展が期待されている。

富士市にとっては、同じ木材を原料とする紙・パルプのほか、林業・木材産業、輸送機器、化学工業など、市内に立地する多くの分野で新たな産業発展が期待されている中、ことし3月には県主導による「ふじのくにCNFフォーラム」が設立。市内33社を含む68社が新製品の研究・開発を進めている。

市が計画している研究会では、用途開発に取り組む企業の発掘や素材の特性についての基本的な知識の習得、情報共有を図ることで、市内企業がより現場に近いレベルでCNFに関する理解を深める場を提供する。担当部署として、産業政策課内に担当職員を配置する。

小長井市長は「実用化に向けた取り組みを積極的に進めていくべき」とする一方、具体的な用途開発が進んでいない現状を指摘。研究・開発と活用に向けて、産学官の連携一層の強化を図る。企業の開発支援にも取り組む考えを示した。

小池氏は、CNF産業の産業集積を進め、製紙業の再興を目指すとする県の方針を指摘。国立研究開発法人産業技術総合研究所の一部移転、企業誘致、ビジネスマッチング開催といった県の施策が見込まれる中、地元自治体としてより積極的に取り組むよう要望した。

市内ですでに研究に着手している中小企業が存在していることも挙げ、補助制度の積極活用の呼び掛け、素材としての一層の周知にも取り組むべきとした。

# マイナンバー対応学ぶ

## 岳南法人会が制度導入踏まえ

【6面関連】岳南法人会（佐野裕永会長）は5日、マイナンバー制度の導入を踏まえ、実務対応に関するセミナーを瓜島町の富士商工会議所で開いた。

特定社会保険労務士で社会保険労務士事務所みらいサポート代表の大参直子さんが、マイナンバー法やこれからの実務、具体的な準備と対応策などについて講演を行った。

大参さんはマイナンバー法の位置付けを、「個人情報保護法の特別法」と紹介。マイナンバー法は全ての事業者が対象で、第三者への情報提供は本人の同意があっても原則禁止であることや、情報は保存期間経過で廃棄と削除が必要であることなど個人情報保護法との違いを解説した。

自社で対応が必要となる従業員については正社員や契約社員、パートと報告。個人番号を従業員などから取得する際には、利用目的を特定して明示することと、なりすまし防止のための厳格な本人確認が必要だと指摘した。

本人確認では、正しい番号であることを確認する「番号確認」と、手続きを行っている者が正じい持ち主であることを確認する「身元確認」の両方が必要であることを伝えた。

個人番号の提供を求める時期については、現従業員に対しては通知カードの到着後、今後入社する従業員には雇用契約の締結時や入社誓約書の提出時、関係先から提供を受けるタイミングは、契約締結時が適切だとした。

グループ企業での情報管理の注意事項としては、「転籍や出向の場合に本人以外の操作で新会社へ個人番号を移動させることは禁止事項に当たる」とし、新会社で新たに従業員本人から個人番号を取得することが必要だと指摘した。

社会保障や税に関する手続き書類に個人番号を記載する事務を他の事業者に委託する場合についても説明。

安全管理措置を順守するためには▽秘密保持義務▽事業所内からの特定個人情報の持ち出し禁止▽特定個人情報の目的外利用の禁止▽再委託における条件▽漏えい事案などが発生した場合の委託先の責任▽従業者に対する監督・教育―などの契約締結が必要だと強調した。

# アーカイブス制作

## 公害克服の映像記録

富士市は、公害克服の取り組みを記録したアーカイブス（※）映像を制作する。

小長井義正市長は「貴重な教訓として後世に残していくことは市の重要な責務。単なる記録としての資料にとどめてはいけない」と見解を示した。

7日の市議会9月定例会で、小池智明氏の一般質問に答弁した。

富士市は、戦後の高度経済成長に伴い、製紙業や輸送用機械工業など多様な産業が集積する工業都市として、飛躍的な発展を遂げた。

一方、産業の発展と引き換えに大気汚染によるぜん息被害や著しい水質汚濁などが発生。昭和40年代には「公害のデパート」などと呼ばれた時期もあった。

公害問題は、市民や事業者、行政が一体となり、さまざまな苦労を重ねながら英知を結集し、長い年月をかけて環境の改善に取り組んできた歴史がある。

アーカイブスは、こうした官民の取り組みを映像データとして取りまとめる。テレビ局から映像提供を受けるなど、幅広い資料収集を行い、豊富で質の高い内容としていく考え。

市では、これまでにも昨年11月に開催している環境フェアで初のパネル展示を実施。環境アドバイザーや富士環境保全協会の協力を受けて作成した「富士市公害克服史」を披露している。

小長井市長は「来年が市制50周年であることを踏まえ、パネル展示だけでなく多くの資料を活用しながらさらに充実したものとするよう検討を始めている」と報告。

鈴木隆之環境部長は「公害を克服した者の使命として、富士商工会議所や県紙業協会と一致団結し、映像制作に当たる」とした。

**※アーカイブス…重要記録を保存・活用し、未来に伝達すること**

# 全公用車青パトに

## 3年めどに防犯体制強化

小長井市長は、公用車による青色回転灯装着車両の防犯パトロールについて、今後3年程度をめどに装着可能車の全てを青パトに登録する方針を示した。公務中のパトロール活動を常時実施できる体制を整える。

7日に開かれた市議会9月定例会で、笠井浩氏（民主連合）の一般質問に答弁した。

市職員のパトロール実施者証の取得も奨励する。「パトロール可能な職場の全職員のパトロール実施者証の取得を目指す」とした。

市では本年度、事務改善制度の職員提案に基づき、全公用車を青パトに設定することで、より多くの職員による防犯パトロールができる体制づくりを開始。不審者発生時間帯の約8割を占める午前7時―午後6時の時間帯が、公務時間と大きく重なることを踏まえた。

市によると、青パトとして登録可能な公用車は158台。本年度は11台を新たに登録し、41台が青パトとして稼動している。

本年度8月末までの実績は、従来のまちづくりセンター配備車両によるパトロールは295回。庁舎などで管理する車両は、新たに登録された車両の稼動期間が2月余だったが179回に上った。

パトロール実施者証の取得状況を見ると、本年度は新たに55人が取得。合計222人になった。

# リフォーム体感を

## 川祥建設が17日に開館

富士市伝法の川祥建設（川添義浩社長）は、17日（土）に「リフォームの情報館」をオープンする。

これまで同社で住宅を建設した利用者らに、ライフスタイルの変化に合わせたリフォームを体感してもらうことを狙いに開設。参考となるリフォーム用商品を数多くそろえた空間づくりを実現させるほか、関係する情報も多数用意している。

1階には55インチの大型スクリーンを設置。来館者のプランに合わせた間取りと色彩を3D画像でイメージしてもらう。

館内にはキッチンや洗面台などを備え、館外にはデッキスペースのほか、庭を見立てて石や芝、レンガを敷設。エントランスも一般住宅仕様のデザインにするなど具体的なイメージづくりをサポートしている。屋根には省エネとエコライフ提案の一環として太陽光発電装置を設置している。

リフォーム事業部の白川誠部長は「飲み物も用意している。ゆったりと疑似体験をして将来の参考にしていただきたい」と来館を呼び掛けている。

リフォームの情報館（富士市伝法3109の7☎309241）。

17日にオープンするリフォーム館

# するが看護専門31日にフェスタ

富士市中之郷のJA静岡厚生連するが看護専門学校は31日（土）、するがフェスタ2015を開く。午前10時―午後2時。

「夢で繋（つな）がる　するがの芽・地域で咲かせる笑顔の華」をテーマに掲げて各種体験や飲食類の販売などを繰り広げ、学生たちが日頃の学習成果を披露するとともに、地域に看護の心を伝える。

妊婦や老人体験、呼吸・脈拍・血圧・体温・意識を測定するバイタル測定のほか、するがの食堂、学生相談、バザー、就労継続支援A型手作り工房イルカによる焼き菓子販売などもある。

来校の際には、公共交通機関の利用と上履きの持参を呼び掛けている。

JA静岡厚生連するが看護専門学校（☎560550）

# 代行運転手にけが負わせる

富士署は6日、富士市依田橋町、無職市川俊明容疑者（59）を傷害で現行犯逮捕した。

調べでは、市川容疑者は同日午後11時ごろ、同市御幸町の路上に停車していた代行運転車両を蹴った上、注意した運転手の男性（35）に対して顔に頭突きや殴るなどの暴行を加え、全治5日間のけがを負わせた。

市川容疑者は当時、酒に酔っており、容疑について「覚えていない」などと否認しているという。

# 亡くなった人

富士市

大石かねさん102歳（中之郷3819の5）

影島光芳さん81歳（入山瀬2の2の14）

松本正也さん86歳（吉原3の8の4）

諏訪部守保さん76歳（三ツ沢84）

（10月6日まで）